

第1表 5令時に各処理を施した場合の繭質

	繭 重			繭 層 歩 合		
	♂	♀	平均	♂	♀	平均
恒定条件区	1.33 ± 0.024	1.77 ± 0.025	1.57 g	22.83 ± 0.32	18.37 ± 0.35	20.60 %
無停食区	1.48 ± 0.029	1.88 ± 0.027	1.68	20.87 ± 0.41	17.97 ± 0.27	19.42
普通区	1.46 ± 0.016	1.84 ± 0.026	1.65	21.24 ± 0.54	17.87 ± 0.42	19.55
絶食6hr区	1.46 ± 0.022	1.84 ± 0.026	1.65	20.87 ± 0.37	17.03 ± 0.32	18.95
" 12 "	1.42 ± 0.022	1.84 ± 0.025	1.63	21.6 ± 0.37	17.7 ± 0.27	19.65
" 18 "	1.43 ± 0.027	1.84 ± 0.022	1.64	21.7 ± 0.43	17.48 ± 0.22	19.59
" 24 "	1.40 ± 0.022	1.78 ± 0.022	1.59	21.8 ± 0.32	17.43 ± 0.33	19.61

品種24, 54 1962初秋蚕, 供試額数♀♂60粒

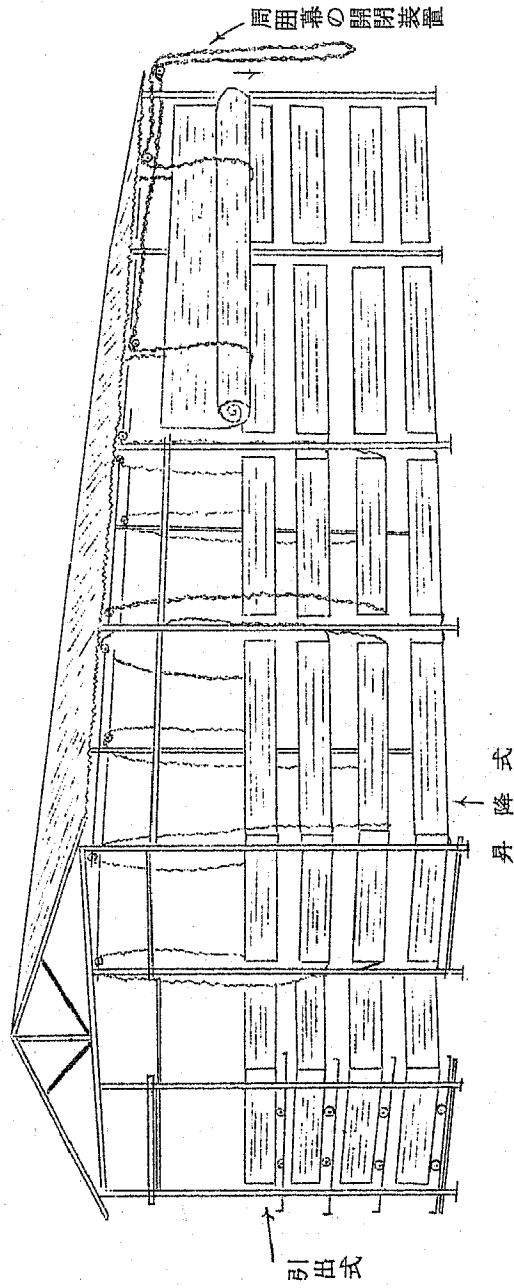
糸桑育用飼育枠およびその 多段式装置について

田中茂光

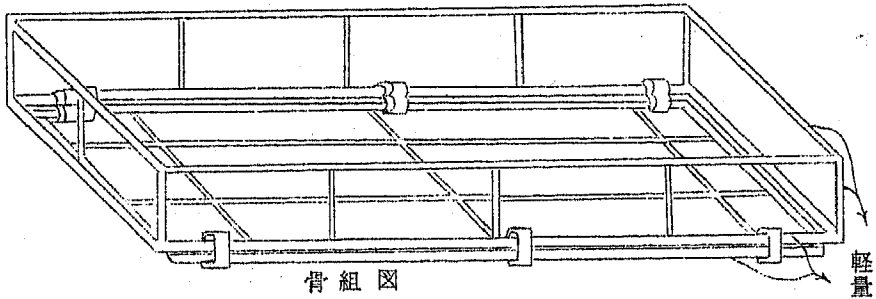
近年軽量C型鋼を主に用いた、養蚕用簡易ハウスが普及されつつあって、居宅内養蚕からの解放が逐次実現している。そして今後は、これに多少の設備を加え、その価値を向上させることが望まれている。そこで当農場では次のような飼育枠およびその多段式装置を簡易ハウス内に組み入れ、実用試験を行ったのでここに紹介する。

飼育枠を簡易ハウス内に取付

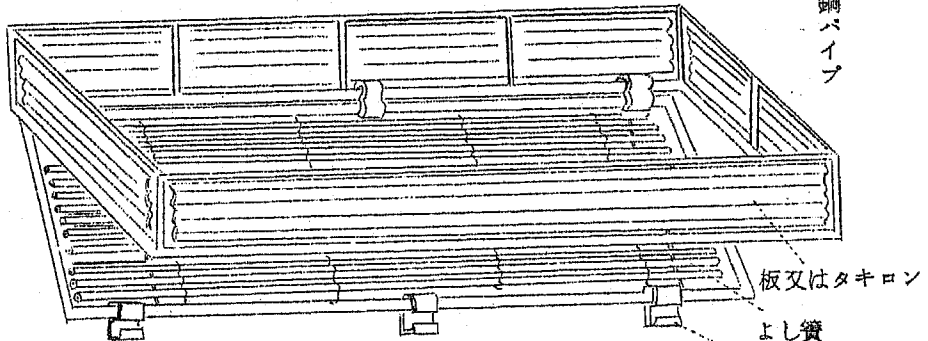
(2.5間×6間, 2セット連結, 飼育量80羽)



条桑用飼育枠の構造



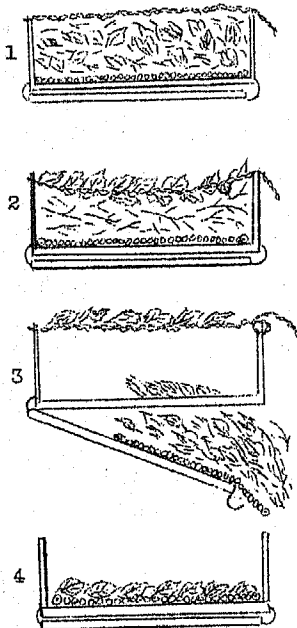
骨組図



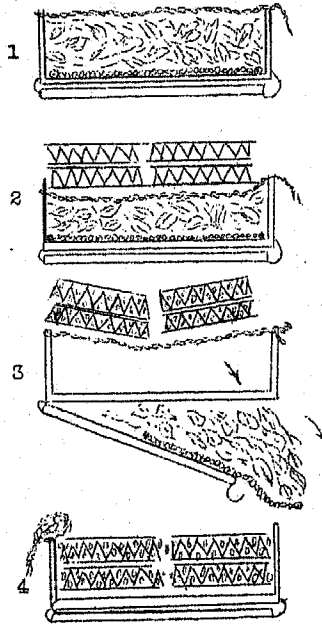
底部開閉図

大きさ 縦150cm 横270cm 深さ25cm

除沙の方法



自然上簇の方法

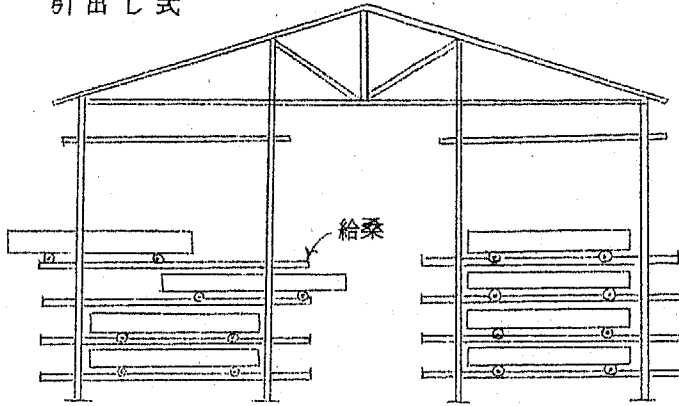


- 左
1. なわをおき
 2. それと直角方向に給桑
 3. 1~2回給桑后なわを端に結び底部開放
 4. 簀を元に戻し、なわを解く

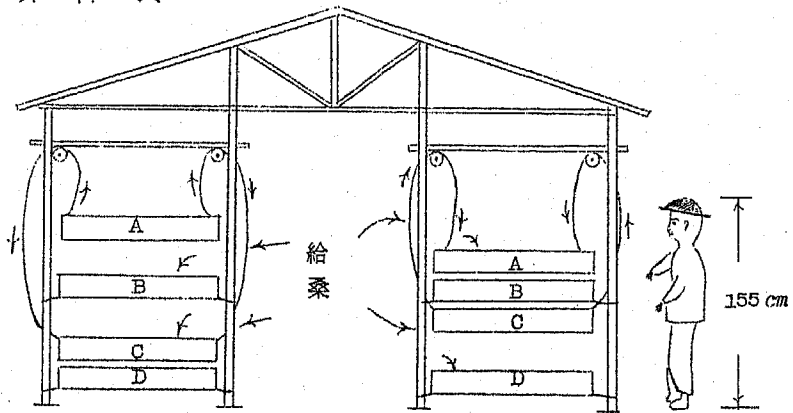
- 右
1. 熟蚕約1割現われた頃廻りびきを拾い補桑をしてなわをおく。
 2. 改良葉を2段にのせる(1枠に12ヶ)
 3. 約20時間后までに熟蚕は大部分登簇(80%)するので、なわを結び底部を開け、残沙を引き出す。
 4. 底部を閉じ、収穫までそのまま。

多 段 式 方 法

引 出 し 式



昇 降 式



A と C が可動 , B と D は固定

条桑用飼育枠およびその多段式装置の特長

- (1) 枠によって蚕児の散逸を防ぎ、給桑作業が極めて簡便にできる。
- (2) 保湿が容易であるため、給桑の萎凋を防ぎ給桑回数を減ずることができる。(従来の4~5回給与を2回位に)。
- (3) 飼育枠は底部開放するので、随時除沙が可能である。
- (4) 自然上蔭をこの枠で行うことができ、上蔭室や蔭箔等が全く不用である。従って上蔭時の作業ピークを解消できる。
- (5) 多段式によって設備費および場所の経済性を高め、作業巨離を半減する。
- (6) 本装置による飼育は、3令より実施できる。但し3令中(春)は保温上屋内で積み重ね式にする。
- (7) 以上によって飼育総労力は従来の $\frac{1}{3}$ 以下で足りる。従って経営規模の拡大が可能となる。
- (8) 本装置は現在普及している養蚕用簡易ハウスに直ちに組み入れられる。
- (9) 材料は軽量鉄パイプが主で、軽便、堅牢で耐用10年以上である。
- (10) 収容量は1枠内に3令蚕2万頭以上、4令蚕1万頭、5令蚕5千頭(掃立卵量2.5B舎)を収容できる。